

ようこそ

第 31 号

浄土真宗本願寺派

円光寺

〒870-0108

大分市三佐3-15-18

TEL097-527-6916

FAX097-527-6949



(上) 即如ご門主さま(前列中央)と記念撮影

(5月22日、百華園)

即如ご門主さま
ありがとうございました



(左) 念仏奉仕団の期間中(5月22日～23日) 御影堂と百華園の清掃奉仕をしました

(5月23日、百華園)

念仏奉仕団という活動

八年ぶりに念仏奉仕団でご本山(京都西本願寺)に同行27人でお参りさせていただきました。

第24代即如ご門主から専如新門さまへの法灯継承式を間近にひかえ、ご門主さまに心から感謝の御礼を申し上げたいと思立ったことです。

お天気に恵まれ百華園でご門主さまと記念撮影をさせていただき直接お言葉を賜りました。園内の瑞々しい青葉とさわやかな風が相まって、ご門主さまの声が心地よく心に染み入りました。

ご門主さまは、浄土真宗におけるお聴聞の大切さを、聞いて覚えて分かった理解できたということではなく、お念仏申す日暮しのなかで深く味わってまいりましたとお示しくございました。

六月六日の法灯継承式でのお言葉のなかで、即如前門さまは37年2か月のご門主在職期間を振り返り、印象に残る事柄の一つに念仏奉仕団のことをあげられ「宗祖(親鸞)聖人にお礼をし、自発的にご奉仕して下さることは、まことに有り難いことです。これこそ、本願寺は、平生もいきいきとしたお寺であることがわかる大事な活動です」と述べられています。

浄土真宗のお寺のあり方を重ねて思います。阿弥陀如来の本願念仏のご法義を明らかにしてくださった親鸞さまにお礼を申し、平生業成のお念仏の生活をさせていただき、その拠点が私たち門徒同朋のお寺です。平素からいつもきれいに荘厳して、多くの方々に仏さまのご縁に遇ってほしいとの願い一つに、私にできる精いっぱいのご奉仕を日々させていただきたいと思っています。

次回は専如ご門主のもと、念仏奉仕団でご本山に皆さん一緒にお参りいたしましょう。

第3回念仏奉仕団の旅 5月22日(木)～24日(土)



お抹茶と京菓子の接待をいただきました (23日、書院鴻の間)



お晨朝にお参りしました (23日、阿弥陀堂前)



開会式前に全国各地のお同行と和らかに交流しました(22日)



唐門(上)飛雲閣(下)拝観 (23日)



「モダン寺」本願寺神戸別院に参拝しました(24日)
(上)インド様式のエキゾチックな別院外観
(下)独特なお荘厳雰囲気の本堂で



御影堂 清掃奉仕のようす(22日)



唐門(上)飛雲閣(下)拝観 (23日)



閉会式で晃照住職に感謝状と参加章がおくられました (23日、安穩殿)



「モダン寺」本願寺神戸別院に参拝しました(24日)
(上)インド様式のエキゾチックな別院外観
(下)独特なお荘厳雰囲気の本堂で



御影堂 清掃奉仕のようす(22日)



このご縁に8名の方が帰敬式(おかみそり)を受けました (23日、御影堂)

夕食懇親会(23日、淡路島ニューアワジ)

～ゆっくり観光も楽しみました～



締めはやっぱり鶴崎踊り



歌って踊って円光寺劇団



神戸中華街(24日)



淡路島花さじき(24日)



京都嵐山竹林(23日)

世々生々

憲法解釈の変更による
集团的自衛権の行使容認
が閣議決定された。海外
での自衛隊の武力行使を
可能にし戦争への道を開
くものだと懸念する◆政
府は戦争抑止力として有効であ
り、国民の生命と権利を守り国
際社会の一員として日本の国益
にそうものだという◆日本国憲
法は平和憲法といわれ、第9条
は戦争放棄と軍備及び交戦権の
否認をうたう。この憲法下で自
衛隊ができたが、日本は戦後69
年いかなる戦争にも参戦するこ
とがなかった◆国民のためと言
いながら、国民不在の議論の末
の決定だ。なぜ憲法改正ではな
いのか、その手法が独断的で危
うく感じる◆浄土真宗に生きる
私たちはどう考えるのか。阿弥
陀さまは十方衆生、あらゆるい
のちを分け隔てなく救うとおは
たらきだ。そこに敵味方の区別
はない。非戦平和は仏さまの願
いである◆私たちの教団は過去
に国策に順じて戦争に協力した
重い歴史を背負う。あの大戦で
亡くなっていかけた先人の思い
は如何ばかりか、お念仏申しつ
つ訪ねていこう。世の中の流れ
に流されることなく、真実変わ
らない仏法に軸足をおき何がで
きるか、私たちのつとめを思う。

お朝事「法話」より

法灯継承ということ

法灯継承式のご縁にご本山にお参りしました。お念仏の法灯が宗祖親鸞聖人から代々の宗主に受け継がれるということです。五日には第24代即如ご門主ご退任のご消息が發布され、翌六日の法灯継承式では第25代専如ご門主から初めてのご消息をいただきました。

ご消息とはご門主さまが私たち門侶にくださるお手紙です。37年の間ご門主として私たちをご教導いただいた前門さま、そして新しくご門主になられた当門さまが、法灯継承に際してのお心持ちを述べられたものです。その中心は真実変わるのではない浄土真宗のみ教え、阿弥陀さまの本願念仏のご法義ですが、目まぐるしく移り変わる現代社会にあって、これからの宗門のあり方をお示しくださるものです。少子高齢化が進み、私たちのお寺を取り巻く環境は厳しさを増していますが、混迷する社会の諸課題にも取り組んで、お念仏の道を共に歩んでまいりましょうということでした。今回法灯継承という歴史的な



御真影さまの前で第24代即如ご門主(右)から第25代専如ご門主(左)に御譲渡式(6月5日夕刻、御影堂)
※「本願寺新報」6月10日号より転載しました

ご縁に遇わせていただき、日々のお勤めの大切さをあらためて有難く思いました。ご本山では毎朝六時から阿弥陀堂と御真影さま(親鸞聖人御尊像)をご安置する御影堂で晨朝勤行(お朝事)がご門主さまのお導師調声でつとめられます。「キミヨウムリヨウジュニヨライ」とご門主さまが発声され「ナモフカシギコウ」とお参りのお同行が続きます。即如ご門主ご退任の日にはご門主さま最後の調声で日没勤行というお夕事のお勤めがあり、その後御真影さまのお厨子の御扉を閉められ、夕刻その御鍵とご門主の御印(公的な印鑑)と御衣体の御譲渡式があつて、翌六日のお晨朝で専如新ご門主が御扉を開けられ御真影さまのもと初めての調声で「正信偈」のお勤

ご案内

- ◆常例法座 7月16日(水) 10:00~11:30
- ◆子ども会サマースクール 7月31日(木)~8月1日(金)
- ◆初盆会・盆おどり大会 8月12日(火) 19:00~21:00
- ◆全戦没者追悼法要 (平和を願う鐘つき) 8月15日(金) 11:00~12:00
- ◆秋季彼岸会法要 9月22日(月) 11:00~14:00
同 19:30~21:00
9月23日(火) 13:30~15:00
- ◆敬老会 10月1日(水) 11:00~13:00
- ◆常例法座 10月16日(木) 10:00~11:30

“月に一度は お寺参りしましょう”
※詳しくは『寺通信』でご確認ください。

お朝事にお参りしましょう
▲毎朝6時30分~7時V

めをされました。いよいよ次代に法灯が継承されていくんだなと身をもつて感じたことです。私たちのお寺、皆さんのお家もそうです。脈々と法灯が継承されて今ここに私たちはお念仏申す身にさせていただきました。法灯継承とは、ご門主一人が重責を担うことではなく、私たちもそれぞれのお役目のなかで担って行くつとめがあります。ご門主さま、前門さまのお心をしっかりといただくなかに、いよいよお念仏申す日暮しをさせてお念仏の法灯を世界に子や孫に、まずすぐ隣の人に伝えてまいりましょう。(6月7日)

新一年生を祝う会



新1年生 岩崎けんしんさん(左から3人目)入学おめでとう
またみんなでお寺に来てね(4月6日、花まつり特設花御堂前)

水曜学校修了式



6年間ずっと通ってくれた野上るりさん(前列左)と鈴木みなみさん(同右)修了おめでとうそしてありがとう(3月12日)

お念仏を子や孫に

いきいき円光寺しています!!

お花がいっぱい円光寺

四月の花まつりの会をはさんで二週間、お寺の境内がご門徒皆さんが持ち寄ってくださったプランターのお花でいっぱいになります。しだれ桜も今年は見事にたくさん咲いて、来年以降が本当に楽しみです。

6月29日(日)、仏教壮年会の皆さんが花壇造りと庭木の剪定をしてくださいました。親鸞聖人御尊像のそばに山帽子の木も植え、境内が綺麗に整いました。愈々ご門徒皆さん、私たちのお寺になっていきます。どうぞお寺にお参りください。お念仏の花をいっぱい咲かせましょう。

すてきな花壇ができました



朝早くから汗びっしょりになってお手伝いくださいました



できあがった花壇を前に仏社員の皆さん



中庭もすっきりきれいになりましたありがとうございました(6月29日)



きれいなお花のプランターが並んだ境内で(左)花まつりの会(4月6日) (右)円成会お花見会(4月1日)

親鸞聖人降誕会法要

春季彼岸会法要



降誕会バザーは今年も大盛況!!朝早くからご加勢の仏婦役員さん、皆さんのおかげです。ありがとうございます。(5月18日、門徒台所)



水智浄志ご講師(大分市眞光寺住職)(5月18日)



岩崎康教ご講師(佐伯市西音寺副住職)(3月20日)

ほれぼれとお聴聞

本願寺別府別院の報恩講に同行14人でお参りしました。別院ご門徒手作りのお齋がとてもししかったです。(4月15日)



あ と が き

四年に一度のサッカーワールドカップ大会に世界中が注目だ。とりわけ出場国の興奮ぶりは熱い。仕事も手につかないほどだ。オリンピックも然りで、毎年ではなく四年に一度がいい。年回法事も毎年ではない。お寺に連絡、親戚縁者への案内、お齋の準備と大変だ。法事を済ませて「ほつとした」と本音も。数年に一度のご縁だからこそ精いっぱいお勤めさせていただくことが肝心である。阿弥陀さまはいつでもどこでもこの私を必ず救うとおはたらきだ。せめて仏さまのお心になう仏報謝のお勤めをさせていただこう。